

令和7年度視察報告について

1 経緯

北区では中期計画（令和6年度～令和8年度）及び北区障害者計画2021においても、障害のある人が安心して暮らせるグループホーム等の多様な生活の場の整備を目標に、社会福祉法人等による障害者グループホームの整備を誘導するとしている。

令和4年度に区議会で陳情が採択された入所施設整備も含め、今後も民間活力を活用した障害者福祉施設整備を推進し、第7期北区障害福祉計画に定めるサービス見込量の確保に努めるため、障害福祉課において区内施設の施設視察を実施した。

2 視察報告

(1) 入所施設

①障害者支援施設 浅草ほうらい（社会福祉法人 清峰会）

視察日	8月8日（金）10:30～13:00
住所	台東区清川2-14-7
障害サービス	施設入所支援 定員30名（知的 男性15名/ユニット、女性15名/ユニット） 短期入所 定員10名 生活介護 定員80名（うち30名は施設入所者） ※台東区の地域生活支援拠点である。 また、虐待防止センターの機能を委託されている。
特徴	- 平成22年に区立蓬萊中学校の跡地を活用して開設。特別養護老人ホームと複合施設。 - 清峰会は基本的に知的障害を対象とした事業展開をしている。 - 入所施設の利用者の平均は49歳。重度化や高齢化が進んでいる。 - 居室は男女でユニットを分けている。 - 施設内は介護福祉ソフトを導入しペーパーレス化を推進している。 - 拠点として整備される前（13年前）から、安心生活支援事業として24時間365日の緊急連絡対応を台東区から委託されており、4人の相談支援専門員でローテーションしている。 - 職員に音楽療法士がおり、楽器演奏などの活動を楽しんでいる。 - 生活介護の生産活動の特徴としてとして「さをり織り」（台東区の伝統的な機織り）を導入している。

②障害者支援施設 江古田の森（社会福祉法人 南東北福祉事業団）

視察日	11月19日（水）10:00～12:00
住所	中野区江古田 3-14-19
障害サービス	施設入所支援 定員 40名 【内訳】知的：30名（10名×3ユニット） 身体：10名（10名×1ユニット） 短期入所 定員 4名 生活介護 定員 30名
特徴	・当地は元々国立病院および結核の施設があった区有地を賃借した PFI 事業として平成 19 年に開設した。高齢施設（特別養護老人ホーム等）と複合施設。 ・当法人は医療法人財団健貢会の系列であり、施設の近くにある同系列の総合東京病院と医療連携が可能なことが特徴。 ・入所施設の利用者の平均年齢は 50 歳。20 歳（1 名）から 70 歳まで年齢の幅は広い。全体的に高齢化が進んでおり支援区分 6 が 30 名以上。 ・身体の利用者のうち医療的ケアを必要とするものが 1 名いる。短期入所で医療的ケアを必要とする利用者が来た際は、系列の総合東京病院から看護師を派遣するよう委託している。 ・強度行動障害への対応として職員に基礎研修（リーダークラスには実践研修）を受講させている。施設長は研修講師の経験者のため現場でアドバイスしながら人材育成をしている。 ・生活介護は個別送迎が特徴であり、送迎車 4 台を 1 台 3 便で回転している。

（２）グループホーム

① グループホーム niima （社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会）

視察日	8月14日（水）10:00～12:00
住所	豊島区池袋 2-24-17 （niima は 2 丁目の居間の意）
障害サービス	グループホーム 定員 15名 【内訳】知的（男性 7 名、女性 8 名） 短期入所 定員 3 名
特徴	・当地は元々幼稚園と地域のコミュニティスペース（区有地）だったが、地域で重度の障害がある当事者の親たちの働きかけで開設された。 ・区分 5 や区分 6 でも表現活動をしたいという気持ちが施設のコンセプトで系列の目白生活実習所・目白福祉作業所と連携してアート活動をしている。「メジロック」ブランドで施設内の壁画やアートレンタルに展開している。 ・地域生活支援拠点の拠点コーディネーターを担っている。精神（相談支援センターこかげ）、知的・身体（niima）といった専門を分けており、緊急時連絡支援については事前登録制で対応可能。 ・年代は 28 歳～68 歳と幅広い（区分 6：12 名、区分 5：3 名）。 ・訪問サービス（訪問医療、訪問看護、訪問歯科等）を利用者に合わせて組み合わせ利用している。